

2010年度 行事部主催 夏の施設見学会報告《かんでんエルハート》

平成22年8月25日(水)大阪府支援教育研究会は、例年恒例の支援施設見学会で、住之江公園にある、かんでんエルハート(重度障がい者多数雇用事業所)を見学しました。75名の見学希望者がありましたが、施設の関係で40名に制限させていただきました。ここでは、たくさんの障がいのある方が主役になって働いておられる様子を見ることができました。障がいのある方がどのような事ができるかを考えて仕事をつくり、働きやすいように様々な配慮がなされていることもよくわかりました。支援教育の担当者として、大変多く学ばせていただきました。以下に見学会でいただいた素敵な資料を紹介します。また、参与の戸田様は自ら障がいのある子どもさんを育てる思いを、「親の10ヵ条」にし、話をして下さいました。これも御好意で掲載させていただきます。

～「障がい者の自立と就労を進めるためには」(株)かんでんエルハートの取り組みから～

かんでんエルハート(重度障がい者多数雇用事業所)

参与 戸田 幸彦

<ねらい>

○障がい者も皆(健常者)と同じように社会に出て働いて生活したいと願っている。

○障がい者雇用は行政、民間企業の社会的責務である。

○障がい者が働きやすい、住みやすい社会は皆(健常者)も働きやすく、住みやすいやさしい社会になる。

1. 障がい者とは(大変な不自由をもって生きている人)

- ・身体障がい者…身体障がい者手帳(1から7級)
- ・知的障がい者…療育手帳(A, B1, B2)
- ・精神障がい者…精神障がい者保健福祉手帳(1～3級)

(発達障がい者…学習障がい(LD)、高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHD)

2. 障がい者も自立して働く社会があたり前の社会(ノーマライゼーションの推進)

- ・誰でも無限の可能性を秘めている
- ・生かされる日々でなく自分(の意志)で生きる日々を
- ・一般(企業)就労と福祉就労



*働いておられる障がい者の方が仕事内容を説明して下さいました。

3. 企業には障がい者の雇用義務がある

雇用の対象は

- ・雇用率 (1. 8%)、除外率 (0~80%)、雇用納付 (5 万円/人/月)、助成金の制度
- ・雇用形態は (企業内、特例子会社、派遣、パート、在宅)

□障がい者の雇用状況報告 (H21. 6. 1 現在 1. 63%)

○障がい者が企業で働くために

- ・「仕事に人を」でなく「人に仕事を」(障がい者は何が出来るか)
- ・働く意欲

4. 重度障がい者が多数働いている職場とは

(株) かねでんエルハートの DVD「拓く (ひらく)」【上映済】

5. 企業で働くために必要なことは

- ・自主通勤 ・ある程度の身辺自立
- ・体力 ・働く意欲 ・(職業能力)

*作っておられる品物を販売しておられます。

6. 企業で働くために～学校、福祉施設、家庭で連携して育成してほしいことは～

1) 社会的自立と意欲を育てる

- ①自分のことは自分でできる (身辺自立) 自分が主体的に生きる (できないことはサポートも可)
- ②善悪の判断、他人に迷惑をかけない
- ③待つこと、我慢すること、根気を育てる 仕事は単純、定型、くり返し作業が多い
- ④可能性を信じて、あきらめない
興味あるものを伸ばす できることを伸ばす (できないこと強制しない)
どこかに良い所ある 病的なものでも教育・成長と共に良くなる例ある

2) 体力

[方策]

- ①自分のことは自分でやらせる (基本的生活習慣) 自分でやらないといけないと思込ませる
(あいさつ、親の手伝いなど)
- ②やって見せ、言い聞かせて、自分でやらせてみる 継続して根気よく教え込む
失敗は成功のもと (あれ・これはダメ、図解して)
- ③しかる、ほめるのくり返しで育てる (怒るとは違う) しかる時は小さく、ほめる時はオーバーに
- ④達成感、充実感、満足感、存在感、使命感を味わわせる
やった、できたという喜び 他人に認められるうれしさ
- ⑤努力したらできる可能性のある目標を積み重ねていく

7. かねでんエルハートは障がい者に働く喜びを与え、育てる

- ・皆な同じ人間の集団
- ・主人公は障がい者 (自分がやらないといけないと思込ませる)
- ・自覚をもたせる (名刺、背広、年令相応の対応など)



- ・仲間と一緒に ・適度な緊張感ある職場（朝終礼）
- ・給料をもらう自覚（欲望を満たせる）
- ・夢を与え、報いる（海外旅行）
- ・働くばかりでなく、遊びをとり入れる（誕生会など）
- ・人に認められ、人に社会に役立っている自覚（花の販売、メールサービス）

8. 共に働くスタッフ（支援者）に求めているもの

受容と共感 心を通い合えているか（目線） 特性、個性を理解し、教え込む
強くて、たくましくて、優しく、慈悲に満ちあふれているか

- ・ケジメをつけ、役者を演じる（しかるとき、ほめるとき、遊ぶとき、優しくするとき）
- ・公平に扱う、エコヒイキしない ・不満は小さいうちに摘みとる
- ・直接教えている人ほど叱る、ほめるの世界を ・時に体力も必要
- ・日常きめこまかい生活指導を（家庭と連携）（解っているだろうはダメ）
あいさつ、手洗、耐える、我慢する、節約する 恥ずかしさを知らせる

9. 障がい者とその家族に理解を深めていただくために

- ・重度重複障がいの子と共に生きる

親の10カ条

戸田幸彦

（信念）皆 無限の可能性を秘めている

1. 親ガメこけたら 皆こける（しっかり生きて）
2. 親の愛情（父母）まことに大事（父も協力して）
3. 親の限界を自覚しよう（孫をかわいがるようではダメ）
4. 親としてのケジメ（役者を演じる）をつける
しかる時 遊ぶ時（視線を合わす）
ほめる時 優しくする時（困っているなど）
5. 親の思うようにはならぬ 他人の子どもとの比較は不幸のはじまり
6. 必ず解っている、云わないのはダメ（10云うと1つは理解している）
7. 年令相応の対応を、子ども扱いしない（その年令の能力の一部はある）
8. 生まれた時（障がい解った時）のショックを乗り越えれば、
その後のすべての困難はいとも簡単に乗り越えられる
9. 親なきあとの取り越し苦労はやめよう 誰かが面倒をみってくれる
そのとき本人が困らないように（自分のことができる）
10. 幸せを運ぶ子、神仏の使者である 恥でない、自慢の子である

～参加者の感想～

- ・ 支援教育に携わる者として、見聞が広がりました。一般の作業所と違い、かなりプロフェッショナルな職場であるように感じました。「ともに生きる」というイメージはこれかとインパクトを受けました。障がい者、健常者とも差をつけずに働く、大事なことは、「どれだけいい仕事ができるか」に尽きるということですね。
- ・ 障がいを持った人たちがイキイキと働いておられる様子に感動しました。ただ、新規採用になるとかなり厳しいというお話を聞き、障がいを持つ子どもたちにはまだまだ難しいと思いました。今後、ますますこのようなすばらしい会社が増えていってほしいと心から願います。
- ・ 会社設立の理念、思い、施設設備すべてが素晴らしいと思いました。不自由さのある人たちが働けるこのような会社が増えて、生き生きと働ける、生きていけるようになることを願って障がいを持つ子どもたちを育てていかなければと思います。戸田さんのお話が心にしみました。教育に携わる者や保護者にも聞いてもらいたいと思いました。
- ・ DVD での涼子さんの大きな夢、その通りだと感銘を受けました。バリアフリーの施設や働いている方々と触れ合えてよかったです。戸田さんのお話も勉強になりました。障がいを持つ子どもほど多くの教育を受けないといけないという言葉はその通りですね。
- ・ DVD の中で森さんのお父さんが涙ながらに「こういう施設が広まってほしい」とおっしゃっていたこと、私も心の中で本当にそうだと実感しました。エルハートさんのような会社で自分に自信を持ち、自立して生活していける方々がもっともっと増えていってほしいと願いました。そして、そのために私たち教師がすべきことは「意欲を育てること」これを教えていただき、心の中にずっと光が見えてきた気がしました。目の前の子どもたち一人ひとりを大切に子どもの無限の可能性を広げていけるように頑張っていきたいと心から思いました。
- ・ 第一印象は、とてもすばらしい施設だと思いました。障がいがあるとかないではなく、人間としてすごしやすい環境だと実感しました。生徒の「やる気」をどう育てていくか、また、しっかり考えていきたいと思いました。

以上、今年度の行事部主催の施設見学研修の報告とさせていただきます。かんでんエルハートの方々、当日はお忙しい中大支援研施設見学研修のためにお時間をさいいただき、本当に有り難うございました。末尾ながらお礼申し上げます。

大阪府支援教育研究会 行事部